

4-2 南房総市における地域公共交通活性化・再生総合事業

南房総市地域公共交通総合連携計画の目標

合併に伴う生活環境の変化から、南房総地域全体を俯瞰した広域的な交通環境の整備を推進し、住民や来訪者の利便性向上を目指す。特に過疎地域の公共交通問題において「ニーズの創出策」を論じ、「生活系交通」と「観光系交通」の戦略的融合を目指す。

20年度事業の実施状況

1. 事業の内容

1) 南房総市快速バス「うらら」の実証運行

- 運行期間 : H20. 10/1～H21. 3/31
- 運行ルート : (平日) 富浦駅～市役所～枇杷倶楽部～三芳・丸山支所～和田福祉センター
(土休日) 富浦駅～枇杷倶楽部～鄙の里～ローズマリー公園～和田福祉センター
- 運行本数 : 平日8便、土休日8便
- 運賃 : 2地区まで200円、3地区以上300円(小児半額、減免有)※地区は旧町村境
- 運行事業者 : 館山日東バス(株)

3) 鉄道・高速バスとの連携強化

地域公共交通の活性化を目的とし、本格運行に向けた実証運行において、幹線・支線の役割を明確にし、コミュニティバスの本来の働きであるフィーダー線としての機能を十分発揮できるよう、1次交通である鉄道と高速バスとの接続性を強化している。特に地域住民はもちろんのこと、来訪者の二次交通として、鉄道・高速バスとの連携では、積極的なPRを図っている。



南房総市地域公共交通活性化協議会

南房総市、館山市、千葉県、千葉県バス協会、館山日東バス(株)、JRバス関東(株)、千葉県タクシー協会、安房道の駅連絡会、住民利用者、道路管理者、交通管理者、関東運輸局、千葉運輸支局

【事務局】南房総市企画政策課内 0470-33-1001

2) 快速バス車輛の整備



2. プロセス、創意工夫

- 平成19年3/19バス交通再編研究会設置
- 平成19年7/5地域公共交通会議設置(地域審議会を活用した住民利用者の参画・意見反映)
- 全地区・全世帯への交通アンケートによる公共交通の現状把握と需要調査、住民利用者の意識高揚・啓発
- 地区別住民説明会の実施(公共交通の現状説明)
- 「おんだらバスサポーター」による住民利用者による評価指標の作成への参画検討
- 1次交通(鉄道・高速バス)との連携強化(JR小さな旅、びゅう商品への積極的な取り上げ)(1次交通からの乗継ぎ割引の実施)
- JR千葉支社及び管轄駅長とのワークショップ(鉄道の利用促進と地域交通の利用拡大取り組み運動を展開)
- 南房総観光プロモーション協議会との連携による広報活動
- 地域内交通(バス・タクシー・レンタサイクル)の接続性向上のため道の駅等を活用した「田舎版パーク&ライド」拠点の整備
- 減免制度の拡大(運転経歴証明書提示による割引)

3. 事業費等(単位:千円)

■総事業費	22,767	●運賃収入	453
		●市負担金	14,773
		●総合事業費補助金	7,541

南房総市「うらら」快速バス運行開始。

富浦←三芳・丸山経由→和田福祉センター

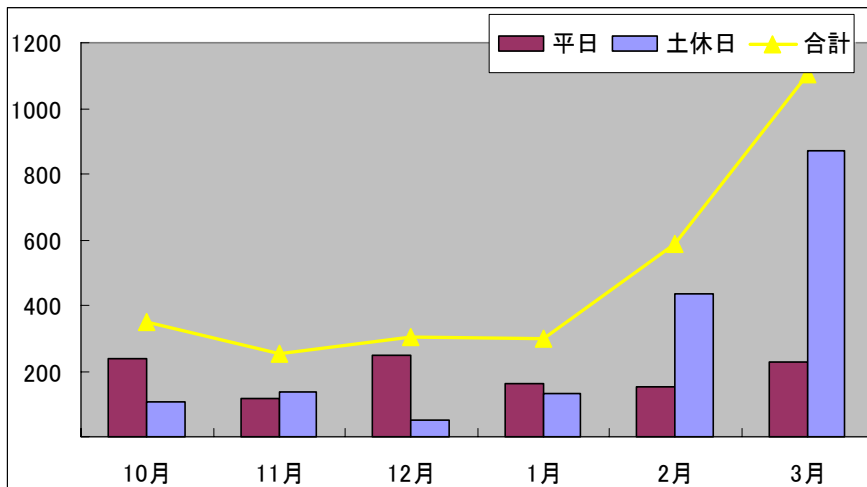
2008年10月1日~

JR・高速バスから乗り継ぎ割引があります。

南房総市役所へ直接。高速バスのりば。JRへの乗り継ぎが便利! 富浦～和田間を約40分で結ぶ。

南房総市・南房総市地域公共交通活性化協議会
電話：0470-33-1001 Eメール bus@city.minamiboso.chiba.jp

4. 利用実績 【快速バス「うらら」 月別利用者数推移】



6. 今後の課題

■平成20年10月1日から実証運行開始した快速バス「うらら」について、地域住民の大切な移動手段として、しっかりと認識を図り、本格運行へ向け、あらゆる工夫をする。

■道の駅等を交通結節機能として活用し、1次交通と2次交通の乗換えターミナルとして機能強化を図る。

21・22年度の事業予定

- 快速バス「うらら」本格運行…………… 23年4月
- 交通結節点の拠点整備…………… 21年度・22年度
- 運行形態の変更(支線のデマンド運行検証)…………… 21年度・22年度
- 乗合い型デマンド運行用車両検討・導入…………… 21年度・22年度

5. 事業実施効果

- 合併に伴い市域内を横断する移動体系を望む声が多く、特に交通手段を持たない高齢者の方が多く利用している。
- 鉄道駅、高速バスの乗降場所のない地域からの接続ができ利用者の利便性向上が図られた。
- ノーマイカーの推進を行い、マイカー利用者がバス利用へシフトし、環境配慮が図られた。
- 今まで無かった道の駅を結ぶ利用方法として、当初予定していた来訪者のみならず、地域住民の方が利用している。
- 駅からの交通手段のない拠点を結ぶことにより、新たな観光系交通が確立できつつある。(拠点の協力体制確立)
- 交通事業者との連携による交通役割の明確化ができ、幹線・支線の役割を再認識する機会が与えられた。
- 住民利用者の方が意見を声に出す機会ができ、公共交通に関する関心が高まった。
- 和田から富浦までの通勤利用
(バスのみの場合)
(従来)和田～館山600円+館山～富浦390円=690円
※従来は直通路線なしのため、館山において乗り継ぎが必要
(電車の場合) 和田～富浦400円
(快速バスの場合) 和田～富浦300円